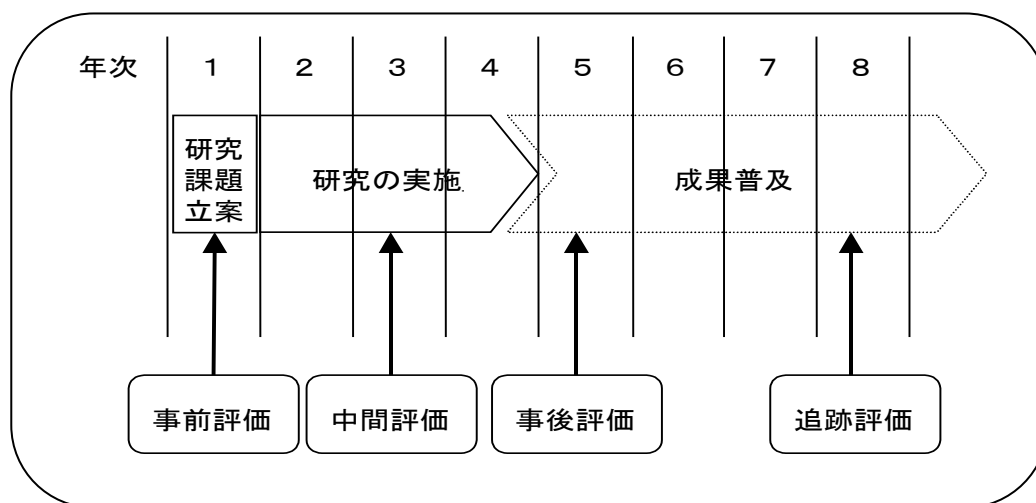


平成 22 年度追跡評価結果

研究開発を行った場合、その成果が社会・経済などにどのような影響を与えたかが最も重要になってきます。また、一般に研究の成果が社会に普及するには一定の期間が必要となります。

このため、総合技術研究所では、研究終了後 3 年を経過した時点で、研究成果の活用状況や波及効果等について、追跡評価を行っており、県民への説明責任を果たすとともに、研究開発の企画・立案機能の強化や成果移転などの効果的な推進に活用しています。

評価時期のイメージ図



【評価結果概要】

平成 22 年度は、平成 18 年度に終了した 28 課題を実施し、結果は次のとおりでした。

評価区分	内 容	課題数
S	研究成果が十分に活用され、効果は当初見込みを上回っていると認められる。	1
A	研究成果が活用され、効果は当初見込みをやや上回っていると認められる。	3
B	研究成果が活用され、効果は当初見込みどおりであると認められる。	5
C	研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みをやや下回っていると認められる。	15
D	研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みを下回ると認められる。	4
計		28

また、総合評価において、研究成果が活用され、効果が当初見込みどおり若しくは上回っていると認められた研究成果の活用状況は、次の 9 課題です。

総合評価結果	センター	課題名	成果の活用状況	研究期間(年度)
S	西部C	高齢者の移動環境における快適性・安全性の研究	ユニバーサルデザイン開発手法を構築し、サポートベンチ、サポートカウンター、背負い式ブロワ、高反発すのこマット、起立補助いす、転倒防止靴下などの製品化につながりました。	H16-18
A	保環C	浮遊粒子状物質の発生源別寄与率の推定に関する研究	浮遊粒子状物質の効率的採取法、分析法、発生源解析法を開発しました。道路環境改善施策や大気保全施策に活用され、県民の安全安心に貢献しました。さらに、平成19年度の大規模な煙霧発生に関する共同研究をとおして中国各県でも活用されました。	H16-18
	西部C	粉末HIP法による抗クリーブ複合金型の開発	硬度、クリープ性、金型内面潤滑性能を向上させたメカニカルアロイイング粉末材料を開発するとともに、本開発材料を耐熱鋼材にHIP拡散接合して複合金型を作成する製造プロセスを確立しました。本研究成果を研究計画で想定していた2社に技術移転し、事業化に結びつきました。	H16-18
	農技C	カンキツの新振興品種「はるみ」の安定生産技術の開発	有望品種の「はるみ」の連年安定生産技術を開発し、生産者や技術指導者へ技術移転を図りました。品種更新が遅れているものの、新植園では開発技術の導入により、隔年結果が是正され、収量が増加・安定しています。	H14-18
B	保環C	温室効果ガス排出量の算定及び取引制度(広島県版)の構築に関する研究	温室効果ガス排出量算定支援ソフトを開発し、「温室効果ガス排出量取引に関する研究会」参加企業等へ配布するとともに、ホームページからもダウンロードできるようにしました。配布したソフトは、過去からの排出量の推移算出や今後の目標設定のために利用されています。	H17-18
	食品C	過熱水蒸気を利用した食材・食品の殺菌技術の開発	既存の過熱水蒸気処理装置を改良し、除菌・殺菌の難しい食材・食品や加熱劣化の著しい乾燥食材・食品の殺菌技術を開発しました。食品微生物制御技術勉強会での成果普及、個別の技術指導に取り組み、新規加工品が製品化されました。	H16-18
	農技C	ナシ「愛甘水」の高品質安定生産技術の確立	ナシ「愛甘水」の大玉・高糖度果実生産のための枝梢及び着果管理技術、土壌の改良技術を開発しました。実証圃の設置、研修会により、技術移転先すべてで技術導入され、生産量及び販売金額が増加しました。	H14-18
	農技C	果樹振興品種の選定試験	県独自の育成品種を含む新品種・系統の本県での栽培等の諸特性を明らかにし、優良品種・系統の選定、普及を図りました。本県育成品種について品種登録、実施許諾し、現地へ普及しつつあります。	H14-18
	畜技C	広島牛の肉色向上技術の開発	牛肉の理化学的調査により肉色の変動要因を解明し、ビタミンA及びカルシウム抑制による肉色向上技術を開発しました。関連成分の調整済み飼料が市販化されるなどし、枝肉格付における肉色成績が向上しています。	H15-18